

## 北朝鮮当局による拉致問題等への理解を深める学習指導案

### 1 目標

- (1) 北朝鮮当局による拉致によって当たり前の日常を突然奪われた人たちの存在や思いを知ることにより、拉致問題が重大な人権侵害であることを理解する。
- (2) 拉致被害者家族が行った街頭署名等の活動から、問題の解決に向けて行動することが大切であることに気付く。
- (3) 人権問題に関心を持ち、その現状や課題について理解を深めることが解決に向けて必要であることに気付く。

### 2 留意事項

人権問題を解決するためには、人権侵害の事実や人権侵害を被っている人々の思いを知り、関心をもつことが大切である。社会科や公民科等の教科書では、北朝鮮当局による拉致問題について取り扱っているものもみられることから、これらと関連付けながら進めることも考えられる。

また、拉致問題対策本部のホームページ ([www.rachi.go.jp](http://www.rachi.go.jp)) には関連資料が多数公開されており、これらも活用しながら、子どもの発達段階に応じて本学習指導案を参考に取組を進めることが望ましい。

なお、北朝鮮当局による人権侵害である拉致問題は、北朝鮮で暮らす人々や日本で暮らす朝鮮半島につながりのある人々に責任を帰する問題ではないことを押さえ、偏見や差別を生まないように配慮する必要がある。

### 3 学習展開例

	学習活動	教師の支援
導 入	<p>1 2002（平成14）年10月15日の拉致被害者帰国の写真（資料①は写真のイメージ図）から、気付くことを出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">「この写真をみて、どんなことが分かりますか。」</div> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の飛行機から降りてきた写真だ。</li> <li>・前にいる人は泣いているのかな。</li> <li>・日本に帰ってきたところの写真かな。</li> <li>・青いリボンをつけている。</li> </ul>	<p>●資料①に類する写真を提示する。</p>
	<p>2 最後方にいる人（曾我ひとみさん）の2014（平成26）年時のコメント（資料②）をもとに、写真の場面について、さらに推測する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">「この写真はどんな場면을写したものでしょうか。」</div> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「母親がまだ見つかっていない」とあるので外国で行方不明になって、救出され</li> </ul>	<p>●人物の表情等に注目させ、写真に関心を向けさせる。</p> <p>●ブルーリボンバッジにも気付かせたい。</p> <p>●資料②を提示する。</p> <p>●日本に帰国した時の写真であったことを確認する。</p>

	<p>た人たちの写真かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真の人たちは、外国の海か山で遭難したのかな。</li> </ul>	
展 開	<p>3 横田早紀江さんのコメント(資料③)をふまえて、DVD アニメ「めぐみ」を視聴する(約25分)。</p> <p>※ 短縮版(約15分)も作成されており、内閣官房拉致問題対策本部のホームページで公開されている。</p> <p><a href="https://www.rachi.go.jp/jp/megumi/index.html">https://www.rachi.go.jp/jp/megumi/index.html</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 曾我ひとみさんの母親以外にもまだ見つかっていない人がいることを伝え、資料③を紹介する。</li> <li>● 帰国した人々に何があったのかを考えながら視聴させるようにする。</li> </ul>
		
ま と め	<p>4 感想を交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>『めぐみ』を視聴して、感じたことを交流しましょう。」</p> </div> <p>&lt;予想される子どもの反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拉致問題を初めて知った。</li> <li>・ 拉致の被害に遭った人やその家族の人たちは、悲しい気持ちだろうな。</li> <li>・ 何十年もつらい思いをし続けている家族の人の思いを想像すると、自分もつらくなる。</li> <li>・ こんなひどいことは、一日も早く解決されないといけない。</li> <li>・ あきらめずに救出活動に取り組むめぐみさんの家族の行動力がすごい。</li> <li>・ 子どもを大切に思う親の気持ちが伝わってきた。</li> <li>・ 自分の周辺や社会に存在する人権問題について、もっと知りたいと思った。</li> </ul> <p>5 拉致問題について学習して思ったことや考えたことを作文に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要に応じて、横田めぐみさんの弟(哲也さん)のコメント(資料④)を紹介し、「我が事」に置き換えて被害者や被害者家族の思いを想像することが大切であることに気付かせたい。</li> <li>● 横田早紀江さんが街頭で署名活動を行う場面(資料⑤)をふり返り、「北朝鮮に住む一般市民の人たちを憎んだり、恨んだりしているわけではない」ことを押さえたい。(資料⑤の場面から、問題の解決に向けて行動することの大切さや、周囲の人が無関心であることの問題性について考えさせることもできる。)</li> <li>● 人権問題の解決に向けては、問題を自分事として捉え、行動することが大切であることを伝える。</li> <li>● 必要に応じて、帰国した人たちが胸に付けていたブルーリボンについて説明する(資料⑥)。</li> </ul>

(資料①) 拉致被害者の帰国時のイメージ図



政府 拉致問題対策本部が制作した拉致問題啓発資料（パンフレット）「北朝鮮による日本人拉致問題－1日も早い帰国実現に向けて！－」（公開日：H29. 6 ページ数：24 ページ）に、2002（平成14）年10月15日に5人の拉致被害者の方々が帰国された時の写真（写真のタイトルは、「24年ぶりの拉致被害者の帰国」）が掲載されています。

パンフレットの日本語版は、以下のURLでダウンロードできます。

<https://www.rachi.go.jp/jp/shisei/keihatsu/pdf/shinsasshi201706.pdf>

※パンフレットは、日本語の他、英語、中国語、韓国語、フランス語、スペイン語、ロシア語で制作されています。

(参考) 政府 拉致問題対策本部ホームページアドレス：www.rachi.go.jp

(資料②) 曾我ひとみさんのコメント

だいす にほん きこく ねん た わたし せかい ひとり  
大好きな日本に帰国し、もう12年が経ちました。ですが、私には世界で一人しかい  
ない大好きな大好きな母親がまだ見つかりません。本当に今考えると、頭が真っ  
しろ なに なん きも  
白になって、何が何だかわからない気持ちになります。

(資料③) 横田早紀江さんのコメント

わたし ちゅうがく ねんせい とき にいがた てんきん ねん げつめ がっこう かえ  
私たちのめぐみは、中学1年生の時に新潟に転勤して1年3か月目の学校の帰り  
みち いえ ちか すがた け にん かえ  
道、家のすぐ近くで姿を消しました。たった5人が帰ったきりで、それはいったいど  
ういうことなのだろうって、皆さんが考えてくださるようになって、ようやく今、国  
れん じんけんもんだい と あ  
連にも人権問題としてこのことを取り上げてくださるようになりました。

(資料④) 横田哲也さんのコメント

いろいろな事件事案が世の中にはあるわけでありませけれども、北朝鮮という国家主導のもとにおこなわれた犯罪であるということをやはり認識しなければならないですし、我が事、つまり、両親や兄弟や子供が拉致されたらどうなんだという思いでニュースを見てほしいです…。

(資料②の参考)

<拉致問題対策本部HP掲載の曾我ひとみさんのビデオメッセージ全文>

24年間、北朝鮮に拉致をされ、大好きな日本に帰国し、もう12年が経ちました。ですが、私には世界で一人しかいない大好きな大好きな母親がまだ見つかっていません。私と同じ日、同じ時間に拉致をされました。本当に今考えると、頭が真っ白になって何が何だかわからない気持ちでいっぱいになります。

そして、この拉致問題はもう長い年月(としつき)、色々な人がたくさんの努力をして今まで来ました。もう本当に時間がありません。1日も早く解決して、みんなが楽しく日本で暮らすことができるように心から願っています。

~~~~~

1978(昭和53)年8月12日 母娘拉致容疑事案

曾我ひとみさん(当時19)、曾我ミヨシさん(当時46)

曾我ひとみさんは2002(平成14)年10月に日本に帰国。

夫のジェンキンスさん(アメリカ)と2人の娘も2004(平成16)年7月に渡日、帰国。

(資料③の参考)

<拉致問題対策本部HP掲載の横田早紀江さんのビデオメッセージ全文>

私たちのめぐみは、中学1年生の時に新潟に転勤して1年3か月目に学校の帰り道、家のすぐ近くで姿を消しました。私たちは本当に打ちのめされて、もう本当にどん底に落とされたような悲しさの中で20年を過ごしてきました。

けれども、考えたこともない北朝鮮の職員によって拉致をされて、北朝鮮に連れていかれたという情報が20年目にして入って、本当にびっくりいたしました。

たった5人が帰ったきりで、それはいったいどういうことなのだろうって、皆さんが考えてくださるようになって、ようやく今、国連にも人権問題としてこのことを取り上げてくださるようになりました。

本当にたくさんの方のご支援の中でしかこれは解決ができないような問題なのですから、どうか皆様方おひとりおひとりが本当にこのことを真剣に考えてくださりまして、政府にうたえてくださり、また、北朝鮮に向けての色々な呼びかけをしていただくことができればありがたいと思っております。

~~~~~

~

<拉致問題対策本部HP掲載の横田滋さんのビデオメッセージ全文>

中学校1年生の時に学校の帰りに、もう自宅近くで北朝鮮の人に連れていかれたんじゃないかと言われておりますが、そして、それが、船に乗って北朝鮮に行くまでに、めぐみは「行きたくないよ」「お母さんお父さん助けて！」って言ったりしたんですけど、無視されて連れていかれて、それで、あんまり泣いたので、船底に移されたっていうんで、そうすると、爪がぼろぼろになってたっていうようなことをいいますから、中々、ほんとにかわいそうなことをしたなと思っています。

北朝鮮は死亡もしていないのに、死亡したなんていうことをしないで、きちんと元気なめぐみを日本に帰していただきたいと思います。

(資料④の参考)

＜拉致問題対策本部HP掲載の横田哲也さん（弟）のビデオメッセージ全文＞

太陽のような存在だった姉貴がいなくなったことで非常に沈痛な家庭内になってしまいましたけれども、それでも姉貴の苦しみを思えば我々のそんな苦しみなんで大したことではないので、ぶれずに救出活動のためにこれからも頑張っ取り組んでいきたいという風に思っています。

国民の皆様におかれましては、色々な事件事案が世の中にはあるわけでありましてけれども、北朝鮮という国家主導のもとに行われた犯罪であるということをやはり認識しなければならないですし、我が事、つまり、両親や兄弟や子供が拉致されたらどうなんだという思いでニュースを見てほしいですし、救出に向けてご協力を賜りたいと思っております。

(資料⑤) アニメ「めぐみ」の、横田早紀江さんが街頭署名活動を行う場面

＜DVD (25分)：15分20秒～15分56秒（ナレーションからは14分45秒～）＞

＜短縮版 (15分)：8分5秒～8分36秒（ナレーションからは7分27秒～）＞

わたしは、北朝鮮に住む一般市民の人たちを憎んだり、恨んだりしているわけでは  
ありません。ただ、親として、今も北朝鮮にとらわれの身となっている娘を助け出し  
たいだけなのです。

(資料⑥)

### ブルーリボン運動

北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じる意思表示として、青いリボンを着ける運動です。NGO「北朝鮮に拉致された日本人を救出する市民ネットワーク」の提案で始まり、「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会」も取組を決定されています。

リボンの青色は、被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の青」を、また、被害者と御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。



(参考)

・「取り戻す」ためのシンボル-ブルーリボン（拉致問題対策本部ホームページ内、「民間の取組」参照）

※ 特定の社会問題への理解や支援、あるいはなんらかのメッセージを表明するシンボルとして用いられるリボンを「アウェアネス・リボン」と言う。「アウェアネス」は、意識や気づきを意味する英語で、リボンの色によってどのような問題や運動について意思を示しているかが表される。

子どもの発達段階に応じ、発展的に、他にどんな色のリボンがあるのかを調べ、社会的認知を促進する必要のある問題等に関心を向けていくこともできる。